



今回の合唱祭の作文は、C組を紹介します。



「やらない後悔よりやって後悔」

C組

私は「My Own Road」を伴奏できてよかったと思っている。

一学期の終わりあたりに自由曲が「My Own Road」に決まって個人的に第一希望だったのもあって、とても嬉しかったし、歌うのが楽しみだった。しかし中々伴奏者が決まらなくて、何回も先生が朝学活などで募集していた。私は伴奏したいと思わなかったので、誰になるのだろうとのんきにそんなことを考えていた。そんなある日の終学活が終わったとき、先生から伴奏をやらないかと聞かれ、やるかとても悩んだ。親や友達に相談して「やらない後悔よりやって後悔」と言われ、やることにした。やると決めたとき、ピアノは5年習っていたけれど、その後の3年間は全くさわっていなかったので、blankで弾けないのではないかという恐怖心があった。夏休みに本格的に練習を始め、思った通りblankは大きかった。しかしやると決めたら、後戻りはできないので、とにかく時間があるときに練習をした。けれど、部活がコンクール前で忙しく、また塾の夏期講習もあったので、なかなかピアノの時間がとれなかった。二学期に入って、放課後に遠藤先生と時間のあるときに練習をしたのもあって、何とか最後まで弾けるようになった。初めて授業でみんなと合わせたとき、途中で止まってしまったが、みんなが支えてくれたおかげで、自信にも繋がった。特に友達から「よかったよ」と言われたとき練習してよかったなと思った。それから何回もみんなと合わせて、伴奏が楽しいと思うことが増えた。本番は間奏で失敗したが、止まらず落ち着いて弾けたのでよかった。

今年の合唱祭は私にとって忘れられない思い出になった。

「合唱祭」

C組

私は合唱祭でアルトパートを歌いました。アルトパートは音程が難しく合唱をすると、ソプラノパートや男声につられてしまい練習でたくさん苦戦しました。また、強弱にも気を使わなくてはいけない声量をもっと上げようと言われたとき、どうすれば上手く歌えるのだろうかと一人で考えていました。でも、パート練習を重ねるごとに友達と「ここ、もっとこうしよう」とアドバイスを出しあったり、「これはどっち？」など、質問をして一人で考えるのではなく、友達と協力して練習をするようになりました。パート練習では、発声や難しいところについて意見をしましたが、次に私の課題となったのは指揮をすることです。「私がズレたらみんなもズレてしまう。」「これでいいのだろうか?」といろいろ考えてしまい、自信のない指揮をしてしまうときもあったり、間違っこともありました。でも、ある日友達に「もっと自信をもって振った方がいいよ。」と言われました。またその友達は他にもたくさんの優しい言葉をくれました。その中でも、「周りの指揮の上手い下手とか関係ないから」という言葉が心に響きました。合唱でそろわなかったときにも「三木さんのせいじゃないよ」と声をかけてくれました。ありがとうございました。

今回の合唱祭では、賞は取れなかったけれど、来年に活かせることがたくさんありました。そして何より、「言葉の大切さ」、「友達の大切さ」、「みんなで協力する」ということについて、よくわかったのでも良い思い出になりました。

「悔いの残る合唱祭」

C組

私にとって、今年の合唱祭は悔いの残るものでした。最優秀賞も優秀賞も取ることができなかったからです。

初めて「My Own Road」を聴いたとき明るい前向きな曲調で、C組にピッタリだと思い、決定したときはすごく嬉しかったです。

本格的に練習が始まり、私も積極的に練習をしました。人前で歌うことが苦手で、一年生の頃は、最後まで声が出ていませんでした。しかし、二年生では、去年の経験や家でもたくさんの自主練習をしたことで、自分の歌に自信がもて、大きな声で歌えるようになりました。人前でも堂々と歌えるようになったのは、去年から大きく成長したところだと思います。

そうして迎えた本番では、今までの練習の中でも一番声を出して歌うことができました。しかし、結果は一つの賞も取れずに終わってしまいました。何がいけなかったのか、動画を観て振り返ってみると、男子の声量に負けて、女子の声量が全く聴こえていなかったのです。確かに私は、自分が昨年より声が出ているのだけを良いと感じ、周りに対して、「声を大きく出そう」などの声かけをしていませんでした。どれだけ発音や感情の工夫をしても、聴く人に対して声が届かなければ意味がありません。このことをもっと早く気づいて、周りを巻き込んで歌っていくことができれば、もっと良い結果になっていたかもしれません。

来年は、もっとレベルアップした合唱が求められるため、クラス全員で団結した姿を見せられたら良いと思いました。